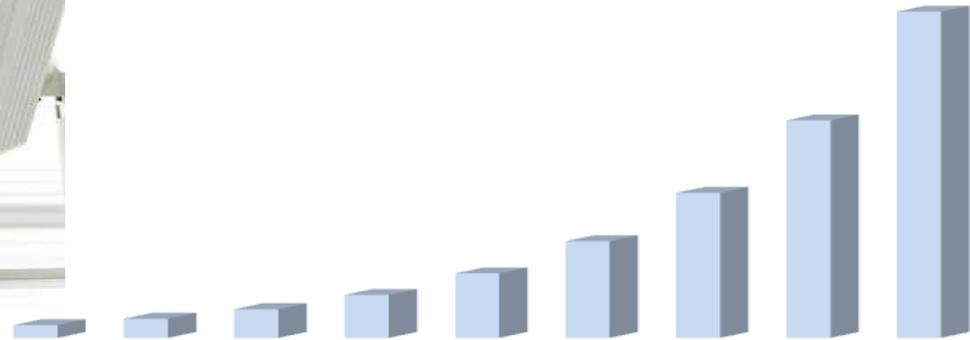


2025年12月期 決算補足説明資料

ソフトマックス株式会社

東証スタンダード 証券コード：3671



2025年度からのトピックス

2025年	1月	新社長 萩原千恵子就任	(新社長、新組織でスタート)
	2月	2024年12月期決算発表	(増収増益)
	5月	第1四半期決算発表	(増収増益)
	8月	第2四半期決算発表	(増収増益)
	11月	第3四半期決算発表	(増収増益)
	12月	市場区分変更	(東京証券取引所 スタンダード市場へ)
2026年	2月	2025年12月期決算発表	(増収増益)
		売上高	69億2865万円
		当期純利益	5億7345万円
		受注高	47億3902万円

いずれも
上場以来 過去最高

▶▶ 電子処方箋管理サービス

⇒電子処方箋追加機能（院内処方）等

▶▶ 電子カルテ情報共有サービス

健康・医療・介護情報利活用検討会
医療等情報利活用ワーキンググループ
（令和6年12月2日）

⇒全国医療情報プラットフォームの構築にむけた施策の運用開始

- »医療情報化支援基金活用による電子カルテ情報の標準化を普及
- »救急時に医療機関等で患者の医療情報を閲覧できる仕組みの運用開始し、普及
- »マイナポータル機能追加（6情報閲覧サービス構築）
- »次の感染症危機に備えた情報共有サービスの利用等の検討

▶▶ 診療報酬DX

厚生労働省ホームページより

⇒共通算定モジュールのa版提供開始

⇒2026年 標準型レセコンの提供

⇒デジタル化による業務の効率化、人材の有効活用を実現

▶▶ 医療DXに関する補助金事業

社会保険診療報酬支払基金医療機関等向け総合ポータルサイト、
厚生労働省ホームページ

⇒より多くの国民の皆様に医療DXに関するサービスの利用を提供するため、国の補助金の支給により医療機関の積極的な導入を促す。

- ▶▶ 電子処方箋管理サービス等関係補助金
- ▶▶ 電子カルテ情報共有サービスの導入に係る補助金

▶▶ ICT機器活用モデル事業

厚生労働省ホームページより

⇒医療費助成分野等でのマイナンバーカードを活用したデジタル化の推進を目指す。
※自治体・医療機関等をつなぐ情報連携システム（Public Medical Hub: PMH）。
公費負担医療制度等の資格確認オンライン化に関する取組み。

▶▶ 各自治体 補助金交付事業

- ◆東京都 令和7年度病院診療情報デジタル推進事業
- ◆神奈川県 看護業務等ICT導入支援事業費補助事業

業績の概要

既存顧客のシステム更新とクラウド型電子カルテシステムの新規受注が堅調に推移。
医療DXの追い風もあり増収・増益で着地。

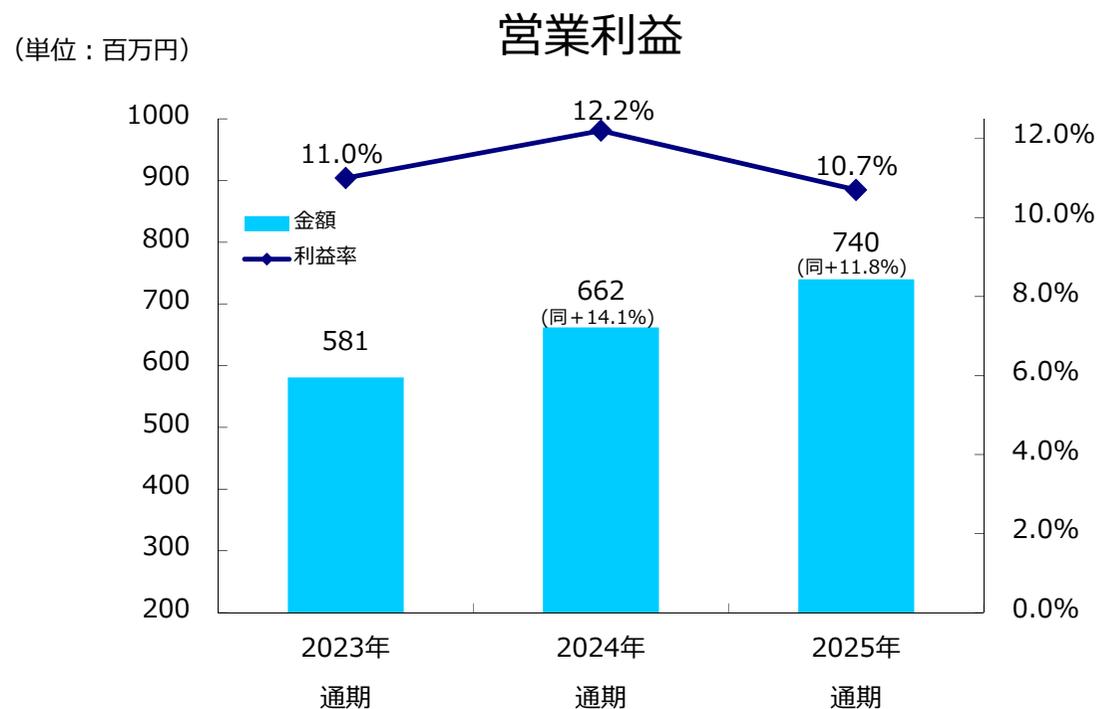
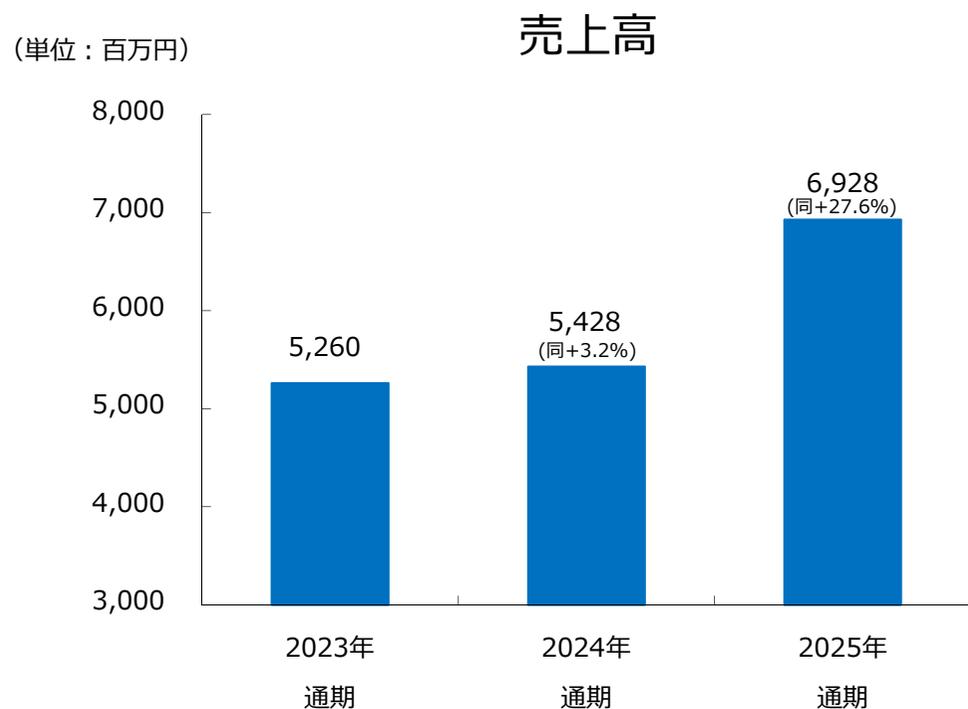
(単位：百万円（配当金を除く）、下段は構成比)

	2024年12月期	2025年12月期		
	実績	実績	対前年比	主な増減要因
売上高	5,428 (100.0%)	6,928 (100.0%)	+ 27.6%	◆ ソフトウェア販売高の増加 (+ 437百万円) ◆ ハードウェア販売高の増加 (+ 768百万円) ◆ 保守サービス等売上高の増加 (+ 293百万円)
売上総利益	1,672 (30.8%)	1,863 (26.9%)	+ 11.4%	◆ 売上高の増加 (+ 1,499百万円) ◆ 売上原価の増加 (+ 1,308百万円)
営業利益	662 (12.2%)	740 (10.7%)	+ 11.8%	◆ 売上総利益の増加 (+ 191百万円) ◆ 販売費及び一般管理費の増加 (+ 113百万円)
経常利益	700 (12.9%)	794 (11.5%)	+ 13.4%	◆ 営業利益の増加 (+ 78百万円) ◆ 営業外収益の増加 (+ 49百万円)
当期純利益	480 (8.8%)	573 (8.3%)	+ 19.4%	◆ 税引前当期純利益の増加 (+ 93百万円) ◆ 法人税等の増加 (+ 0百万円)
1株当たり配当金 ※	30円	(予定) 10円		

※当社は2025年7月1日付で普通株式1株につき4株の株式分割を行っております。2024年12月期については当該株式分割前の実際の配当金の額を記載しております。

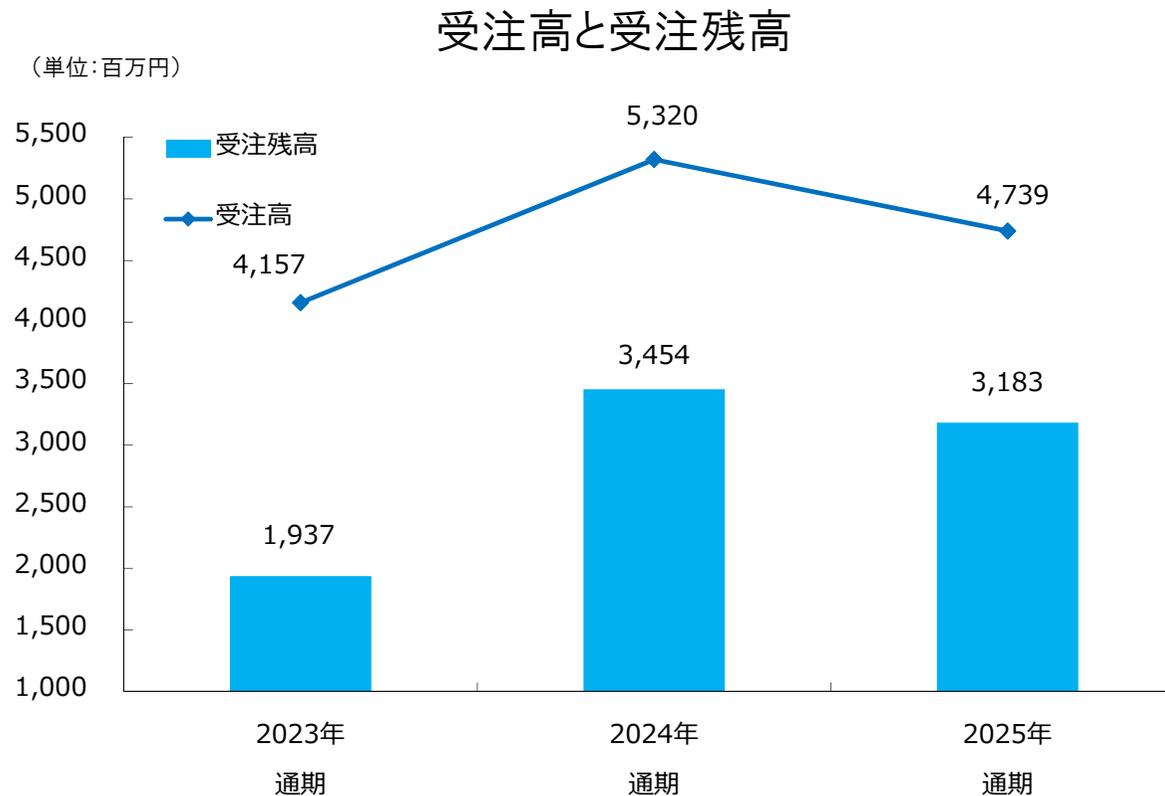
売上高・営業利益の推移

業績は順調に推移し、売上高、営業利益ともに増加傾向。
2025年度の売上高は2023年度と比べ31.7%増加。
2025年度の営業利益は2023年度と比べ27.4%増加。



期末受注高・受注残高

2025年度の年間受注高は47億39百万円で2023年度と比べて14.0%増加。
2025年度の期末の受注残高は31億83百万円で2023年度と比較して64.3%増加。



2026年12月期 業績予想

主力のクラウド型電子カルテシステムの注目度は高く、医療DXの追い風もあり、受注は堅調に推移すると予想。持続的な中長期の成長のために、生成AI等の新しい技術の研究に取り組むと共に、きめの細かいサービス提供による既存顧客の満足度向上を目指す。

(単位:百万円(配当金を除く)、下段は構成比)

	2025年12月期	2026年12月期	
	実績	予想	対前年比
売上高	6,928 (100.0%)	7,800 (100.0%)	+ 12.6%
営業利益	740 (10.7%)	800 (10.3%)	+ 8.0%
経常利益	794 (11.5%)	854 (10.9%)	+ 7.5%
当期純利益	573 (8.3%)	580 (7.4%)	+ 1.3%
1株当たり配当金	(予定) 10.0円 (普通配当10.0円)	(予定) 10.0円 (普通配当10.0円)	

◆最新技術を使った診療支援強化

生成A I 対応

LLM（Large Language Models、大規模言語モデル）等のAI技術による、電子カルテシステムの高機能化及び新機能の開発文章作成支援に対応し、医療費の削減や医療従事者の働き方改革等を推し進めます。今後についてもデータの標準化・利活用を通じて医療DX（デジタルトランスフォーメーション）を推進いたします。

病名付けサポート

電子カルテ入力時に処方内容等と連携し、想定される候補病名を医師に情報として提示を行う、また医事システムにおいてもレセプトチェック時に発生する適用病名の不足に対して、対象となった候補病名を表示する機能を実装し、医師補助作業として病名候補をカルテ上に付与することで医師の病名付与作業の削減を図り、診療報酬請求業務時の病名確認にかかる時間短縮を目指してまいります。

◆WEBを活用した展望

Bto B toCの機能開発	他社との差別化を図ります。
医療DXの推進	医療情報の患者主権化を推進し、PHRの活用による健康増進とデータ利活用を促します。

◆人材の確保

オフショア利用	人材確保が厳しい中、ベトナムのオフショアを利用した人材確保を行っております。 国内外問わずシステムエンジニアの確保ができる点が大きなメリットとなっており、現在も弊社内に数名常駐し、ハノイでも開発を行う体制で、継続的な製品力の維持・向上に努めております。
---------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

働きがいと働き方改革の推進

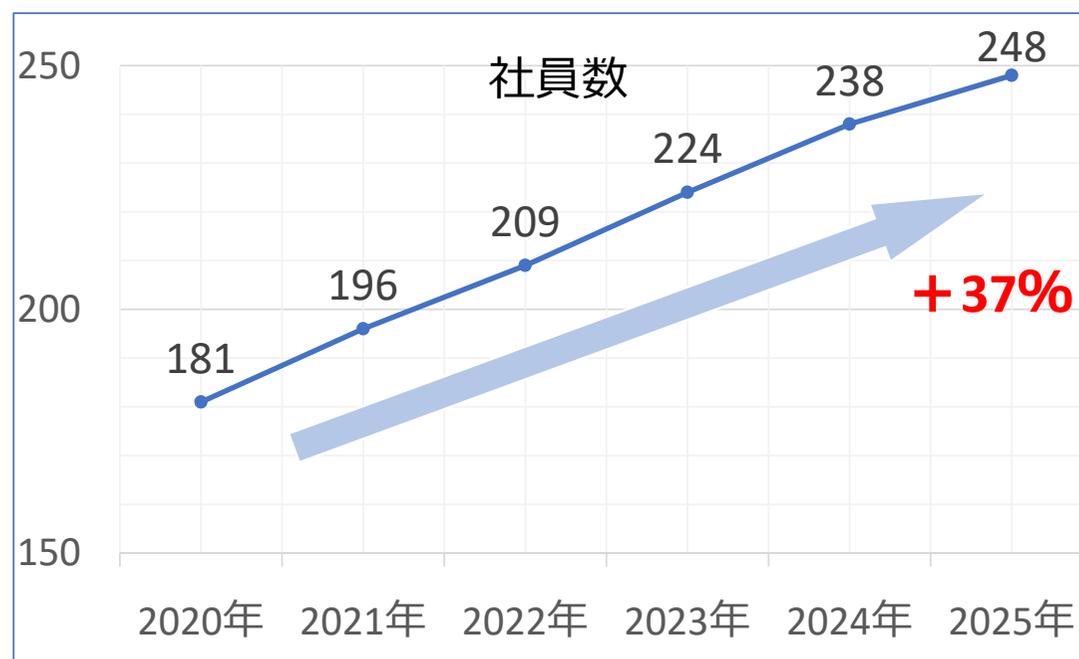
1. 社員教育等の推進

- ・ 外部研修の実施
- ・ 資格取得の推奨
⇒ 資格取得に対する報奨金制度

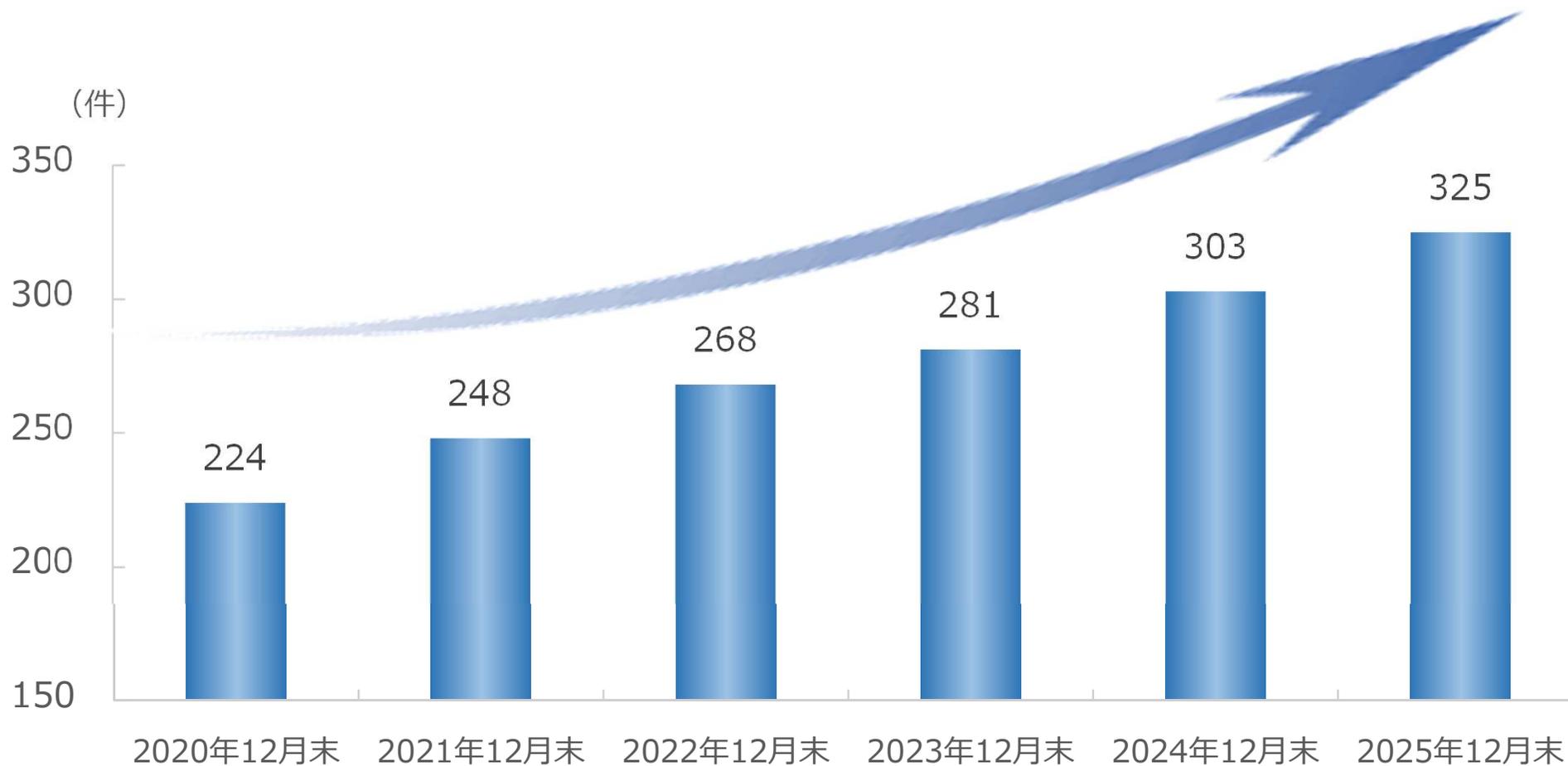
2. 働き方改革の推進

- ・ 女性活躍の場の拡大
- ・ 男性育休取得率や有休消化率の向上
(男性育休：2025年度取得83.3%)
- ・ 社員の給与増加
(2022年5月26日付 日本経済新聞にて「初任給を5年前と比べ49%引き上げた企業」として紹介されました。)

<積極的な人員採用>



電子カルテ・オーダリングシステムの稼働件数は5年前より約1.5倍となり、堅調に推移。



◆株式情報

◆所有者別株主構成比（2025年12月31日現在）

証券コード	3671
上場市場	東京証券取引所 スタンダード市場
発行可能株式総数	77,352,000株
発行済株式総数	24,050,800株（2025年12月31日現在）
株式の売買単位	100株
事業年度	1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月開催
基準日	定時株主総会 毎年12月31日 期末配当 毎年12月31日

金融機関	4.1%
金融商品取引業者	4.1%
その他国内法人	31.2%
外国法人等	1.5%
個人その他※	59.1%

※自己株式は、個人その他に含めております。



<https://www.s-max.co.jp>

ソフトマックスは、
クラウド対応Web型電子カルテで
医療DXを推進します。

本資料に記載されている業績見通し等は、現時点で入手可能な情報による判断および仮定に基づいたものであり、その判断や仮定における不確定要素および今後の事業運営や状況変化等により、実際の業績等とは大きく異なる結果となる可能性があります。

info-ir@s-max.co.jp